20210405 第145回箕面探索同好会 黒川桜の森 記録

- ・ 日時: 2021年4月5日(月) 9:30(妙見ロ駅)~16:30(妙見ロ駅)・ 天候:曇り時々晴れ
- ・ コース:妙見□駅→高代寺→黒川公民館→黒川桜の森→出野三角点(H366m)→ありなしの道→野間の大けやき →稲地BS→ (バス減便のため徒歩) →妙見□駅 歩行距離:12km
- ・ 参加者:30名(男性:12名、女性:18名)、内初参加2名(内田さん、山内さん)
- ・ 概要: ・参加者数は30名で、「赤坂山」、「交野山・国見山」と同じで過去最多参加者数の3度目になった。
 - ・今年は桜の開花が特に早く、このあたりも見頃を過ぎており、3月末頃が最適だったようだ。 (シンボルの「微笑み桜」の満開日は、以前は4/19、数年前は4/12、昨年は4/5だった)
 - 稲地バス停から妙見口駅に帰るバスは、予定していた3時台の便が4月1日から減便廃止されていたため、この間約5km・1時間余りの歩きを余儀なくされた。みなさま+5kmたいへんお疲れさまでした。
 - 反省:ダイヤ変更の行われる年度変わりの時期は、直前のダイヤ確認が必要(特に田舎のバス)。
 - ・以下の写真は、松川さん、福島さん、田中さん、石川浩さんなどの撮影によるものです。



妙見口駅前に過去最多タイの30名が集合



4年ぶりに参加の久保さんと初参加の山内さん



高代寺への登り



カナクギノキの大木の前で一休み



ツキノワグマの「とよ」は元気に顔見せ



黒川への下りは悪路急坂で厳しい



旧黒川小学校グラウンド手前で何やら観察



黒川公民館(旧黒川小学校校舎)前にて



台場クヌギ



出野三角点 (H366m) にて休憩



野間の大ケヤキ



萱葺きの稲地バス停(バスは来ない)



日本一の里山

昔話「桃太郎」の有名なフレーズ「おじいさんは山へ柴刈りに」の山が、 まさしく『里山(里山林)』です。

里山とは、柴刈りなど人の手が入ることで成り立っている林であり、そこでは人の生活と自然が調和しています。

里山林を構成しているクヌギやコナラは萌芽力が強く、概ね 10 ~ 20 年周期で伐採され、薪炭やシイタケ栽培の原木として利用されており、持続可能な循環型の植生を形成しています。

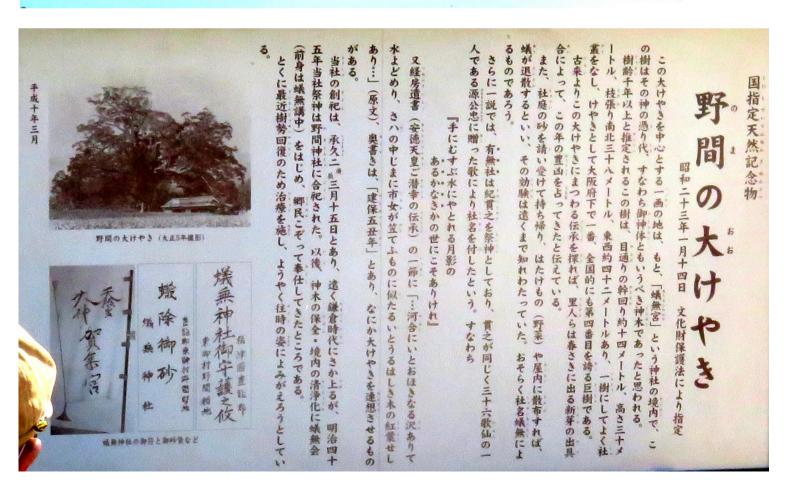
特に、ここ吉川から黒川(川西市)一帯の里山は、かつて池田炭(菊炭)という茶道にも使われる高級炭の産地であったことや、多くの生物が生息し貴重な生物多様性が見られること、また、見事なパッチワーク景観が残ることなどから、『日本一の里山』とも言われています。



池田炭 (菊炭)



兵庫県立大学名誉教授 服部 保著「ふしぎの博物誌 日本一の里山」より抜粋 「ここにはゴジイを優占種とした照葉樹林が保全されている。クヌギ林が育成される以前は、 照葉樹林が広がっていたという事実を示すものとして大変貴重である。神社から離れて道路 から写真を撮ると、里山のクヌギ林と照葉樹林がセットで撮れて楽しい」





キランソウ



ウリハダカエデ芽吹き



カリガネソウ芽吹き…匂いがキツイ。円内は去年の果実の残り



コマユミ…去年の果実の残滓あり



ハナイカダ雄木の花芽



ヤブサンザシ…雌花(柱頭2裂、退化雄しべ5個)



ハナイカダ雌木の花芽



ギンレイカ芽生え



ミカエリソウ芽吹きと昨年の果実(右)



エンレイソウ



カナクギノキ雄花



ニガイチゴ





シロダモ新芽





ツリバナ花芽



ウリハダカエデ雄花(下垂)⇔雌花は上向き







キブシ雄花



アワブキ新葉





トウダイグサ



ウリカエデ雄花





ハクサンハタザオ



台場クヌギ



ネコノメソウ(対生)⇔ヤマネコノメソウは互生





ヤブタビラコ



ウワミズザクラ



ニオイタチツボスミレ…花の中心が白く抜ける、花柄に毛がある、よい香りがある





クロモジ雌花



カナクギノキ雌花



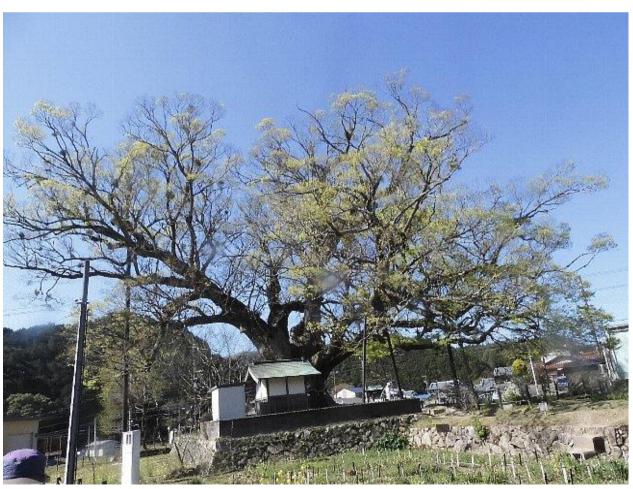


ヤマコウバシ



野間の大ケヤキ…幹回り14m、「ありなし」の由来、蟻無神社(境内の砂を撒くと蟻来ず)、紀貫之の歌





ショウジョウバカマ



カキドオシ



ノジスミレ(田中さん撮影)…側弁に毛無し⇔スミレは毛有り



ヒメハギ(田中さん撮影)





ヤナギザクラ(田中さん撮影)…葉の先の方に鋸歯がある⇔リキュウバイは鋸歯が無いか僅か



日本一の里山 遠景



黒川桜の森 遠景

